

令和5年度 高志中学校1年

福井県立美術館研修、福井市郷土歴史博物館・養浩館庭園研修

◆県立美術館

10月12日(木)秋の校外研修初回として、芸術の秋にふさわしく、えちぜん鉄道を利用し県立美術館へいきました。この日は特別企画展「パリに行きたい!」ではモネ、ルソーなど多くの作家のパリにまつわる絵画・版画など、テーマ展では、「絵のなかパラダイス」をテーマに、タヒチを愛したゴーギャン、日本の原風景に理想郷や仙境を見出した棟方志功や横山大観などを鑑賞しました。学芸員さん達の、作品や企画についての熱心な解説があり、生徒達も時間が足りないのを大変残念がるほど真摯に鑑賞していました。生徒からは「美術館に行って自分の絵の好みが変わりました。今までちょっとよく自分の好みがいま分らなかったの、知れてよかったです。事前学習のときに、美術館の楽しみ方の一つに『解説を読む』とあって、私は解説を読むのが好きなので、絵だけではよくわからないものも、解説を読むとわかることも多かったです。とてもおもしろかったです。」「学芸員の方の話聞いて、絵について知識を深めることができました。絵は、描いた画家さんの生涯が反映されていたり、画家さんの絵に込められた意図が隠されていたりして、とても面白いと思った。これからは自分が好きだと思った絵について、感想を持ってみたいり調べてみたいりしたい。」などの感想がありました。



◆福井市郷土歴史博物館・養浩館庭園研修



10月26日(木)は絶好の秋晴れの中、徒歩で福井市郷土歴史博物館・養浩館庭園研修に出かけました。福井市郷土歴史博物館は福井の町中にあり、これまでも訪問したことのある生徒が多かったのですが、今回はクラス毎に学芸員さんが1名引率して下さり、詳しい説明を聞きながら回りました。

常設展では、洪水時の被害を防ぐ上に、敵の防御にも適した半木半石の実物大九十九橋の橋桁や、戦争や震災を乗り越えて作り上げてきた福井のまちづくりの資料をみることができ、先史時代以降現代までの福井の歴史について理解を深めることができました。

また特別展「THE 福井駅前—地図と写真で振り返る駅前120年の軌跡—」では、明治29年(1896)7月15日の北陸線福井停車場が開業以来、現在の福井駅につながる過程が、AIによってカラー化した市街地の地図や写真によって見る事ができました。ある生徒は「昔の県庁は駅前であり、今のものよりずっと立派に見えました。私はなぜ本丸に移したのか疑問に思い、今後調べたいと思います。」などと言っていました。

◆養浩館庭園

越前松平家の別邸兼庭園であった養浩館では、月が水面に映る位置を計算して設計された「御月見ノ間」や当時の「御風呂」などについての説明を受けました。生徒たちも「池で泳いでいる鯉を眺めたり、庭園を散歩することによって昔の人々の風情ある暮らしを感じることができた。」など、紅葉の始まった庭園を眺め、心穏やかな時を過ごしていました。

